

中部（倉吉市・東伯郡）の取組

1 研究について

令和7年度の中四国小学校体育研究発表大会に向けて、ボール運動の研究に力を入れてきた。県の視点に沿って研究を進めるとともに、その運動がもつ特性を楽しみ、どの子ども活躍できる体育を目指して きた。教具や単元構成、ふり返り板を使った話し合い活動などの工夫も行ってきた。同時に、簡易化されたルールの工夫や評価の仕方などについて様々な意見を交わした。また、陸上運動においても授業研究を行い、指導と評価の一体化や系統性を意識した指導の大切さについて研究を深めた。成果と課題を日常の授業実践に生かし、今後さらに研究を深めていきたい。

2 研究の仮説

- ◇ 運動と、「する・みる・支える・知る」の多様な関わり方や友達・教師・学習の場やルール・教具などとの関わり方を重視して「問いのある学び」のある学習を展開していけば、主体的に学び、学習を調整しながら、工夫して課題を粘り強く解決しようとし、いろいろな知識や技能を身につけた子供を育成することができるだろう。
- ◇ 子供の発達段階に応じて、身に付けさせたい力を明確にし、運動の特性にふれ、楽しさや喜びを味わう単元構成や学習過程の工夫を行うことや、評価を授業改善に生かしていくことなど、指導法を工夫・改善していくことで、運動や健康の価値を実感し、進んで体力や健康を高めていこうとする子供を育てることができるだろう。

3 研究の視点

- ◇ 運動の特性を生かした学び
 - ・運動の特性にもとづく楽しみ方の明確化
 - ・解決すべき課題に気付く手立て
 - ・運動の楽しさに迫る解決方法の工夫
 - ・単元のねらいを明確にした学びを保証する指導と評価
- ◇ 効果的な学び
 - ・運動の特性（動きのおもしろさ）にふれ、楽しさを味わう場の設定や教具の工夫
 - ・「する・みる・支える・知る」ことや「ひと」「もの」「こと」との豊かな関わりを意図した学習
 - ・「分かる」「できる」楽しさや喜びを味わうことができる支援の在り方
（「資料提示」「示範」「助言・補助」「称賛」「環境づくり」「問いにつながる発問」など）
 - ・学習のねらいを達成するための体育的言語活動の充実とその方法
 - ・ICTの効果的な活用（運動量が増える、デジタルとアナログの特性に応じた使い分けなど）
- ◇ 学習評価の工夫
 - ・体育ノート・学習カード等の効果的な活用
 - ・アンケートや振り返り、形成的授業評価等を活用した授業評価と授業改善

4 本年度の主な活動内容

4月19日 総会（役員改選、本年度の研究計画について等）

6月12日 一斉研（授業研究会）

- ・3年 走・跳の運動「小型ハードル走」 授業者 秋田大輔教諭（河北小学校）
- ・5年 ゴール型ゲーム「フラッグフットボール」授業者 岡雄大教諭（西郷小学校）

8月 1日 一斉研（実技研）「フラッグフットボールを基にした易しいゲーム」
・講師 早稲田大学 スポーツ科学学術院 准教授 吉永武史先生

10月 2日 一斉研（授業研究会）

- ・5年 ゴール型ゲーム「フラッグフットボールを基にした易しいゲーム」
授業者 山崎裕貴教諭（羽合小学校）